

第6回 川崎市総合計画有識者会議
議事録

日 時 平成27年7月10日(金) 18:00~20:00

会 場 川崎市役所 第4庁舎 第3会議室

出席者

委 員 出石委員、垣内委員、中井委員、平尾委員、涌井委員

市 側 福田市長、三浦副市長、伊藤総務局長、大村財政局長、瀧峠総合企画局長、唐仁原
都市経営部長、久万企画調整課長

議 題 開会

市長あいさつ

出席者紹介

- 1 新たな総合計画素案策定資料について
- 2 その他

公開及び非公開の別 公開

傍聴者 3名

議事

開会

(久万企画調整課長)

ただいまから、第6回川崎市総合計画有識者会議を開催させていただきたいと存じます。私は、総合企画局都市経営部企画調整課長の久万でございます。本日の会議は公開とさせていただいておりますので、マスコミの記者の方々の取材や傍聴を許可しておりますことを、あらかじめご了承くださいと存じます。なお、誠に申し訳ありませんが、福田市長は、公務のため、30分ほど遅れて到着する予定でございます。また、海外出張のため、秋山委員は本日ご欠席と承っております。出石委員は10分程度遅れていらっしゃるということですので、併せてご報告いたします。

それでは、会議に先立ちまして、三浦副市長から皆様にご挨拶を申し上げます。副市長、お願いいたします。

副市長あいさつ

(三浦副市長)

本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

この有識者会議も新たな総合計画の策定に向けて、今回で6回目ということです。本日が最後ということで、この間、先生方におかれましては、お忙しい中、職員との事前の打ち合わせをはじめとして、何回もお時間をつくっていただき、本当にありがとうございました。今の時代に合った方向を出していただき、心から感謝を申し上げたいと思います。川崎は、いろいろなポテンシャルを持った都市ではございますが、これを活かしていくためにも、この総合計画を大きな強い武器としていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日が最後ということですが、引き続き様々な場面で先生方にアドバイスをいただきながら、川崎がさらにステップアップできるよう、頑張ってもらいたいと思います。職員とも密度の濃いやりとりをさせていただき、あらためてお礼を申し上げます。御礼とこれからも引き続きお願いいたしますということをあわせて、私のご挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

(久万企画調整課長)

それでは、お手元にお配りしております資料の確認からさせていただきます。

●委員名簿

●座席表

【説明資料】

- 資料1 新たな総合計画素案策定資料について
- 資料2 新たな総合計画素案策定資料
- 資料3 新たな総合計画素案と会議でいただいた意見について
- 資料4 有識者会議・市民検討会議の開催概要
- 資料5 新たな総合計画及び行財政改革に関する計画の策定に向けたスケジュール（案）

【参考資料】

- 参考資料1 川崎市総合計画有識者会議 結果とりまとめ
- 参考資料2 川崎市総合計画市民検討会議意見のまとめ
- 参考資料3 第5回川崎市総合計画有識者会議 開催結果概要

【机上配布資料】

- 「平成25年版 大都市比較統計年表」等の刊行について
- 平成25年版 大都市比較統計年表から見た川崎市

出席者紹介

<委員紹介、事務局紹介>

本日の有識者会議もこれまでと同様、内容を記録させていただき、公開していきたいと思しますので、ご理解とご了承をいただければと思います。

それでは、これからの進行は座長の涌井先生にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

1 新たな総合計画素案策定資料について

(座長)

この会議は比較的雨にたたられることが多かったのですが、本日は晴れすぎて少し暑い感じもありますが、早速進めさせていただきたいと思います。

次第にあります通り、新たな総合計画の策定に向けて、時には様々な分野の専門家にお越しいただき、われわれもよい勉強をさせていただきながら進めてきたわけではありますが、三浦副市長からのお話にもありましたように、本日が最後の有識者会議でございます。エンディングに近い状況でありますので、その説明を頂戴したいと思います。あらかじめ申し上げておきますが、相当程度、われわれの考え方を反映していただいております、ここから引き返すことはなかなか難しいところですので、ちゃぶ台返しがない程度に議論を進めさせていただければ有り難いと思います。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、説明をお願いいたします。

(瀧峠総合企画局長)

<資料1説明>

(久万企画調整課長)

<資料2～5説明>

(座長)

ありがとうございました。総合計画の素案の概要の説明をいただいている時に、市長が到着されました。お見えになったばかりで恐縮ですが、何かございますようでしたらお願いいたします。

(市長)

後ほど、お願いしたいと思います。

(座長)

総合計画の中に、有識者会議や市民検討会議での議論をキーワードとして、きちんと取り入れていると思います。

(久万企画調整課長)

できるだけ会議でいただいたご意見を無駄にしないように、あえて資料をご用意し、本日お示ししました。

(座長)

皆さまには、ちゃぶ台をひっくり返すようなご意見はともかく、多少揺れ動かすような意見であれば、それらも含めてご意見をお願いします。

(平尾委員)

総合計画のトータルの骨組みと内容をご紹介いただき、改めてよくここまでやっていただいたと感じております。私が担当した産業とイノベーション分野は、申し上げたことはほとんど反映されていると思います。イノベーション都市・川崎というキーワードについて、なぜイノベーションが必要なのか、最終的には市長のおっしゃる「最幸のまち かわさき」に結びつくのかと思いますが、その点をもう少し突っ込んでいただいてもよかったですのではないかと思います。最近読んだ本に、カリフォルニア大学の経済学者、モレッティが書いた「雇用とイノベーションの都市経済学」があります。イノベーション都市が、なぜ、グローバル経済下において都市の発展のポイントになるのかが書かれています。「最幸のまち かわさき」で最も必要な条件は、そこに雇用と収入があるということです。所得が得られる場所を実現するためには、常に新しい産業が生ま

れてくる都市経済が前提となります。市民にとってイノベーションは身近な概念ではありませんが、新しい産業によって、働く場所と年収（高い所得）がもう少し増え、さらに、高い年収の人が集まることによって、市の税収が増えて財政基盤が強化され、市の施策も豊かになるということがもう少し書き込まれてもよかったと思います。「雇用とイノベーションの都市経済学」は非常に面白い本で、関係される方には是非お読みいただきたいです。この意味で、素案の中に、イノベーション都市・川崎がなぜ必要か、という意味づけがあってもよかったのかなと思います。

（座長）

平尾先生のご指摘の通りだと思います。ジョンソン&ジョンソンの日色社長のお話は非常に刺激的でした。あの日、早速、東急電鉄にオフィスビルの床面積がどのくらい伸びているかを調べるように指示しました。10年前に2~30坪しか借りていないところが、現在10,000坪近い床を借りているということです。渋谷に5棟ビルが建ちますが、全部合わせても六本木ヒルズにかないません。そこで東急電鉄がどのような政策をとっているかと言いますと、アントレプレナーとインキュベーションです。若いころから彼ら（アントレプレナー）に投資をする、つまり、低廉な価格で床を貸し、将来広く借りてくれる人たちを育てる、という将来投資の戦略です。今までのような重厚長大産業におけるイノベーションとIT系ベンチャーとでは成長の角度が違います。そういう意味では、ジョンソン&ジョンソンの日色社長のおっしゃったポートフォリオの書き換えにベンチャーキャピタルを設けて、そちらに投資しているという話が腑に落ちたところです。そういった産業創成をどうするのかという話だということはよくわかります。

（平尾委員）

最近、東急電鉄グループは、東急電鉄の営業エリア内においてインキュベーションするという形で経営を行っているそうです。たまたま昨日、二子玉川の新しくできたホテルに泊まりましたが、あの周辺は様変わりしていて、新しいまちづくりとイノベーションが行われていると感じました。

（座長）

ここ10年で、鉄道事業本部、及び田園都市事業部を壊して、新しい体制をとったというのは、まさに平尾先生のおっしゃる方向なのだと思います。

（平尾委員）

バス事業部もやめたようです。

（座長）

市民検討会議の意見を総合計画に反映しているという趣旨の文章は、どこを見ればわかるのでしょうか。

（久万企画調整課長）

冊子にした時にどのようなかたちで表現するのかということもありますが、今回の素案では135頁にそのあたりの説明を入れています。

（座長）

それは冒頭に入れるべきだと思います。今回の総合計画作成のプロセスを明示し、手順そのものがクリエイティブなものであるということを表現した方がよいと思います。

（平尾委員）

市民検討会議で、川崎市の断トツぶりをもう少し示してほしいというご意見がありました。先週配信されたニュースとして川崎で報道された、「平成 25 年版 大都市比較統計年表から見た川崎市」は非常によい資料ですので、皆さんに配布していただくようお願いしました。これをプランの中に少しでも入れることができれば、川崎市のポジショニングがはっきりしてくるのではないかと思います。

(唐仁原都市経営部長)

「平成 25 年版 大都市比較統計年表」から川崎市に関連する部分を抜き出して、冒頭に一部入れているのですが、もう少し入れられる部分や、川崎市の特徴がわかる部分を加えることを検討します。

(久万企画調整課長)

先ほどの「市民から市民へのメッセージ」の件について、1 頁の表紙裏にも記述しています。

(座長)

これまでの計画は、行政目線で作られてきましたが、今回の計画は対流現象を起こしてつくられたというユニークさが、これだけだと読み取れないように思います。もう少し何か文言を書き加えた方がよいと思います。

(出石委員)

資料 2 の 90 頁 5 行目、産学交流は、通常、産学官（公）交流なので、そうした方がよいのではないのでしょうか。

また、基本政策 5-1 について、区民会議の活性化に触れる必要はないのでしょうか。区民会議を使っていく視点が必要だと思います。

(唐仁原都市経営部長)

区民会議委員の任期は 2 年で、現在募集している最中です。市としても区民会議の活性化のための検討を始めていますが、任期の関係もあり、平成 28・29 年の中で検討・見直しをしていく予定です。

(出石委員)

2 期目の実施計画に反映されるということでしょうか？

(唐仁原都市経営部長)

その通りです。

(垣内委員)

よく出来た素案だと思います。区民のメッセージが入っていることで、みんなでつくったことがよくわかり、川崎らしいユニークな総合計画だと思います。通常、総論の前に前書きがありますが、前書きがあった方が計画としてはよいように感じました。そこに、市民から市民へのメッセージが大きなメッセージとして入っていれば、さらにユニークさが伝わると思います。また、図表が多く、基本政策がビジュアルに出ていることでわかりやすいのがよいです。

2 点目は、「大都市比較統計年表」に関わりますが、川崎市は文化・芸術に関わる消費が全国 1 位のはずですし、音楽家や舞台芸術家の数も非常に多くなっています。文化面は全国的に衰退している中で、川崎市は上向いており、川崎市の多様な魅力のひとつとして入れていただきたいと思います。

3点目は、資料3の1枚目の「趣旨・目的」の4つ目のパラグラフで、「その結果、市民が抱く川崎のイメージは、・・・」とありますが、市が実施した意識調査で市民のイメージが、「公害のまち」から「音楽のまち」へと変わったと聞いています。もしそういったデータがあるようであれば、「住みやすく、活力にあふれた音楽のまち」というように使っていただけないかと思います。

(久万企画調整課長)

前書きについて、素案は議会向けの議決事項部分のみを対象としているので今回は入れていませんが、最終的には入ることになると思います。

(座長)

市長の言葉は入りますか。

(唐仁原都市経営部長)

今回は議決をいただく部分のみを固めるということで、最終的にはもっと詳しい部分をつけた上で、実施計画を含め冊子のかたちにします。その中には市長の言葉も入ることになります。

(座長)

先ほど申し上げたことも、そこに整理されると分かりやすいですね。

(久万企画調整課長)

アーティストの数などは、指標としていかせるかどうか検討の必要があります。

(唐仁原都市経営部長)

資料2の17頁で、「最新の調査による川崎市民の消費動向は、文化施設入場料への支出が大都市中1位である」と触れています。文言で入っているため、分かりづらかったかもしれません。

(座長)

産業と文化の関係は、CSR (Corporate Social Responsibility) と CSV (Creating Shared Value) の違いのようなもので、かつては、それぞれ対比する存在でした。ところが今では感性価値が新しいイノベーションのソースとなるケースが増えており、今までとは違う構図となっていることをお互いに共有・認識しておくべきだと思います。

商品、製品は今までのように必要なものというよりは、感性価値で訴えかけていく要素が非常に強くなっており、ライフスタイルに対してある種のモチベーションを持たせることです。典型例が CSV です。文化芸術は、CSR のように、儲けた人が社会貢献するというのではなく、それ自身が事業目的と合致するという構図になっていて、軽薄短小産業が伸びているのもそこに関係しています。高次のサービス供給をどうするかで伸びているわけですから、そこに密接不可分な関係があるということを頭の中で整理しておけばよいかと思います。

(垣内委員)

文化・芸術はイノベーションを生み出すためのインフラの1つなのだと思います。車は、走る ICT ですが、消費者にとっては、エンジンよりもスタイリングが大事なのです。消費の最後に位置づけられた文化芸術は、今後高度な付加価値を付けるジョブが残っていくためにも必要なものと言えますので、今後の川崎市の重要な指標になると考えていただくとよいと思います。まだ完全に証明されている訳ではありませんが、その方向性は見えてきていると思います。たとえばデザイナーの数は、製造業、第2次産業で増えています。それは、機能と価格競争だけで生きていく時代ではないからで、スタイルや快適性といったファジーな部分に重要性があるという認識が

大切だと思います。資料2の17頁を見ても、デザイナーの特化係数が高いことがわかります。

(平尾委員)

イノベーションは、豊かな人材やインテリ資源が支えていく時代になってきているということでしょうか。文化的な活動とイノベーション活動は融合してきており、川崎市はその可能性を持っているということだと思います。そういう意味でも、資料2の17頁は非常によい指標です。

91頁の中小企業に関して、中小企業振興条例は、中小企業の成長戦略として、川崎市モデルになると思います。まだ、議会を通過していないかもしれませんが、どこかに入れていただいた方がよいかと思います。

(久万企画調整課長)

音楽のまちに関しては、所管課と調整させていただきます。

中小企業振興条例については、実施計画で対応させていただく予定です。

(中井委員)

市民の実感指標と成果指標の関係性が保たれているかチェックしていただくようお願いします。成果指標をあげれば、実感もあがるという相関が、高いものとそうでないものがあるように感じます。

また、将来を見据えて乗り越えなければならない課題と政策が対応していないと、計画書とは言えないので、きちんとチェックしてください。

また、区計画とそれまでの内容があまりにスタイルが違い、全く文章が違うので、もう少し何とか工夫できないものかと思います。

市民から市民へのメッセージもやや唐突感がありますので、章と章をつなぐ工夫が必要ではないかと思います。この章で何を言おうとしているのか、計画書全体の中でどういう位置付けになっているかなどの説明を入れた方がよいのではないかと思います。

市民の実感の目標値は、全政令市最高値を目指すものと、平均値を目指すものがあります。前者は強いところを、後者は弱いところを頑張るといものかと思います。拝見したところ、市民の身近なところの目標設定は平均値が多く、産業や先端技術関係の施策の目標値は、最高値が多いようです。両方をどうバランスしていくかは、市の幹部のお考えによるところなので、改めて目標値をチューニングしてみたいかかと思っています。

(座長)

たしかに区計画の部分は唐突感があると思います。地域包括ケアなど、住民サービスを考える時に、最適なコミュニティの大きさについては結論が出ていません。当面の区のあり方について、その中でどう落とし込みをしてきたかのプロセスがわかると、区計画へのつながりが出てくるかと思っています。区計画は明らかに質が違いますので、どうにか上手くできると思いますが。市民にわかりやすいのは、レーダーチャートです。どういう形に川崎市があって、全国平均があって、それをこんな形にしますというのを示すと大変わかりやすいと思います。

(中井委員)

今の印象は、洋食コースの最後に和菓子が出てきた感じです。

(出石委員)

112頁、政策5-1から、市民自治について書いてあります。別立てよりも、たとえばここか

ら区計画に引っ張っていくのはどうでしょうか。

(久万企画調整課長)

出石委員のご指摘通り、5-1の政策体系の中での取組として区計画がありますので、いただいた意見の御趣旨をふまえ、検討したいと思います。区計画は、実施計画の頭出しになっていますので、どうしても違和感があります。

成果指標と実感指標との関係については、事務局でも問題意識を持っています。今回は例示で、最終的にはそれぞれの成果指標が市民の実感につながるような見せ方にしたいと考えています。

(座長)

それでは、そろそろまとめたいと思います。今回の総合計画は行政が上から目線で作成した計画ではなく、市民などの意見を聴き、様々な対流を起こしながら策定されたことに心から敬意を表したいと思います。

福田市長は、行政上の都合により計画を策定して市民に同意を求めるものではなく、市民がどんなリアリズムの中で川崎市を見ているのかというところに則した、新たな計画策定のプロセスを目論まれたのだらうと思います。チャレンジablに計画を立てたということがわかるようなニュアンスを入れていただけるとありがたいです。

これまで、大変お疲れさまでございました。我々の意見も取り入れていただき、同時に有識者会議の外部アドバイザーのご意見も大変勉強になり、よい機会をつくっていただきお礼を申し上げます。より良い計画になりますよう期待しております。これを持ってまとめの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

(市長)

涌井座長をはじめ、先生方、本当にありがとうございました。それぞれのご専門のところの知識のみならず、川崎を非常によくご存じの先生方ですので、実情をわかった上で川崎をさらによくするために、熱気あふれるご議論をいただいたことに心から感謝申し上げます。

涌井先生がおっしゃったように、今回の取組はチャレンジングなもので、市民の皆さんからの無作為抽出から始まり、皆が試行錯誤の中でやってきましたが、その中で、私をはじめ、職員も気づくこと、学ぶことがたくさんあり、そのプロセスが大変大事だったと思っています。素材を調理する途中でとめてしまうことにならないように、このコース料理がどのような趣旨でどのような思いでつくったものなのか、そしてこれがひとつおりのコースであるということが伝わる、接続が追加として必要な部分なのだらうと思います。

本日も最後までよいご指摘をいただき、ありがとうございました。こちらからもこの後、議会で議論していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

(座長)

それでは、各委員からこれまでの感想や印象などを一言ずつお願いいたします。

(平尾委員)

川崎市の総合計画に関わるのは、高橋市長の時からで、これで3回目です。高橋市長時代には、川崎の臨海部などの空洞化が進み、公害の後遺症もあり、川崎市の生き残りが課題でした。その後の総合計画の熟度は、川崎市の発展を反映してだんだん上がっています。今回は、川崎市の発展を反映した新しい総合計画が、21世紀の川崎モデルとして世界に発信できるものが出来つつあ

と思っています。市長のリーダーシップや涌井先生の座長としてのご苦勞に感謝いたします。私にとっても最後の総合計画になるかもしれず、感慨深いものがございます。ありがとうございました。

(中井委員)

川崎市の総合計画に関わるのは初めてですが、他都市の総合計画は、審議会での発言機会も限られ、しかも出来上がったものは総花的で、だいたい計画作りのお手伝いは実り少ないため、お引き受けしないようにしていました。今回の川崎市の総合計画づくりは、毎回勉強になりました。総合計画は、総花的にならざるを得ない部分はどうしてもあるかと思うのですが、その中に川崎の特徴的なメッセージをどう込められるかというところが、重要だと思います。数ある総合計画の中では、出色の出来だと思いました。時々会議を休むこともありましたが、全般的にはお手伝いができよかったです。

(出石委員)

私もいくつかの自治体で総合計画に関わっていたのですが、多くの自治体はだいたい原案ありきで、意見がほとんど反映されないという印象がありました。逆に比較的小さな自治体では、一から市民が創り上げる手法をとっており、それはそれで面白かったのですが、2年以上もの時間がかかりました。

川崎市は職員の能力も高く、有識者会議、市民検討会議から多くの意見を反映しながら、わかりやすくまとめていることは素晴らしいと思いました。ただ、これからもまだパブリックコメントや議会での審議があるので、もう少し頑張ってください。これを成案として議決していただき、そして、これを実現しなければいけません。

最後に一つ申し上げたいのは、出生率を上げてほしいということです。社会増がとれても、自然増を増やすことが大事だと思います。川崎はポテンシャルが高いので、出生率アップをめざす総合計画であってほしいというのが私の希望です。

(垣内委員)

今回総合計画に携わらせていただき、人口140万人の巨大都市が抱える様々な問題をつぶさに見ることができ、また、様々な先生方の意見をお聞きして大変勉強になりました。これまでも総合計画に携わることはありませんでしたし、今後もないと思いますが、記憶に残る作業であったと思います。

また、ほぼこちらと同じ時期に並行して国土審議会に参加しており、国土形成計画の審議会でも消滅集落を看取る議論をしている一方、川崎市に来るとグローバルな可能性とポテンシャルについて議論をしていて、同じ日本でも随分違うものだと思います。ぜひ、川崎市には頑張ってください。川崎市のようにこれだけポテンシャルがある都市は世界でも少ないと思います。経済的な価値を生み出す一方で、多摩川、生田緑地、ミュージアムなど経済的な価値だけではないものも多く持っています。日本はこれから何で食べていくのか、ジョンソン&ジョンソンの社長もいつもそれを考えているとおっしゃっていましたが、川崎市は十分生き残っていけるのではないかという気がします。是非この計画を実行に移して、「最幸のまち かわさき」の実現に向けて取り組んでいって欲しいと思います。特にミュージアムなどの文化施設、生田緑地などにもたくさん重要な文化財がありますので、そのあたりにも是非目配りいただいて、みんなが幸せに

なれる川崎市を目指していただきたいと思います。市長、先生方をはじめ、これまで誠にありがとうございました。

(座長)

秋山先生からも欠席のお詫びとともに、ごあいさつを書面でいただいております。「常に成熟社会を迎えた日本をリードしていくようなモデル的な市としてさらに躍進してほしい」ということと、「皆様に敬意を表したい」という文章でございますのでご紹介しておきます。

最後に私の方から、ふつつかな座長でございましたが、いろいろお支えいただきましてありがとうございました。以上です。

2 その他

(久万企画調整課長)

約1年にわたりご議論いただき、どうもありがとうございました。いただいたご意見を踏まえ、素案策定に向けて取り組んでまいりたいと思います。

閉会

以 上